

第2学年1組A 英語科学習指導案

指導者 滝口 千尋 (JTE)

田畑マリア (ALT)

1. 単元名 Unit 5 A Park or a Parking Area

2. 単元について

(1) 単元観

リーマンショック以来の世界不況、オバマ氏がノーベル平和賞を貰うなど地球規模で平和や環境を考えなければならないことなど、ここにきて今まで以上に世界的な視野に立って考え行動する人材の育成が緊急課題となってきた。それに伴い、我が国の新総理大臣はもとより、英語で意見を言ったりお互いに話し合ったりすることが当たり前のコミュニケーション手段となってきた。それらを鑑み、新学習指導要領では、平成23年度に小学校5・6年生で年間35時間の英語活動の完全実施を目指しており、鴨川市でも今年から小学校全学年で英語活動が開始されている。その英語活動が効果的に運用され、中学への円滑な移行がなされ、よりよい英語教育がされるように、本市では数年前より英語活動推進委員がすべての小・中学校より選抜され、毎時間の指導計画をたてたり、実際の授業ができるように夏休みには講習会を開いたり、お互いの授業を見あうなど、小・中連携を図ってきた。中学校では、小学校で慣れ親しんできた英語をもとに、自分の意見をはっきりと相手に伝えたり、相手の言うことを理解したりし、さらによりよい考えを双方で築いていく姿勢と能力を培っていきたいと考えている。

本単元では、混み合った駐輪場での女の子の怪我をきっかけに「公園をそのままにするか、駐輪場にするか」という議論が展開されている。ここでは「地域の問題」を扱いながら、「事実を伝える」「意見を述べる」という言語活動が可能である。3年生になるとUnit 5 でより本格的なディベートを扱うが、ここでは2年生として可能な限りで「賛成か反対かを述べ、その理由を加え、さらにより良い意見を言う」活動に発展させることができる。言語材料では、if, when, becauseなどの接続詞を用いた文章を学習する。今までの文と異なり文と文をつなぐ接続詞を用いるため、非常に長い文となる。接続詞自体はそれほど難しいものではないが、今までの2倍の長さの英文を素早く理解し運用するには工夫が必要である。そこで接続詞を用いたチャンツやコミュニケーション活動等で文に慣れ、さらに「自分たちの地域の問題」を扱いながら「自分たちの意見や理由」を英語で言い、皆で「よりよいアイデア」に発展させていくことができる格好の単元であると言える。

(2) 生徒の実態 (男子6名, 女子13名, 計19名)

本学年の生徒たちは、1年生から担当していることや、さらに小学校で英語活動を体験してきたことから、英語が好きな生徒が多い。家庭学習においても担任からだされる1Pノートの他に英語ではBノートを1年365日欠かさずだしてあり、自分なりに工夫して英語を身につけようとよく努力している。それでも英語が苦手な生徒には昼休みや放課後を利用して毎日個別指導を行っている。したがって今の時期に出てきがち「英語はまったくお手上げ」の生徒はお

らず、一人一人が自分なりの学び方で英語学習に取り組んでいるところである。最近ではいつも授業の冒頭で行ってきた Q&A も皆スラスラ答えられるようになり、もう一段レベルアップした活動、たとえば一方通行のやり取りではなく少しでも会話を続けていける活動等を要求するようになった。しかし、英語そのものは楽しんでいるが、地域性であろうか、英語に限らず、「大きな声で自信を持って自分の意見を言う」ことが苦手である。

本単元に入る前にアンケート調査を実施した。

<興味・関心に関するアンケート>

- ① 英語は とても好き(8) まあまあ好き(8) あまり好きではない(2) 嫌い(1)
- ② 授業は とても楽しい(4) まあまあ楽しい(12) あまり楽しくない(2) 楽しくない(1)
よくわかる(9) だいたいわかる(9) あまりわからない(1) ぜんぜんわからない(0)
- ③ 好きな活動(複数回答可) 聞く(7) 話す(8) 読む(10) 書く(7)
- ④ 一番できるようになりたいことは 聞く(6) 話す(12) 読む(7) 書く(11)
- ⑤ 英語の塾に 行っている(9) 行っていない(10)

<文のきまりに関するアンケート>

- ① 英語の文の基本は何ですか。 正答() 誤答()
- ② 次の文で主語と動詞はどれですか。 We need money. 正答() 誤答()

<江見中学校の跡地に関するアンケート>

- ① 統合後の江見中学校は何に利用するとよいと思いますか。
老人ホーム(5) 福祉施設 鴨川青年の家のような施設 みんなの集まる場所
統合小学校(2) 図書館 勉強をする塾 保育所 公園 遊び場

以上の結果からも地域をよくしていくために、英語を用いながらそれぞれアイディアを出し合い検討することが興味深く展開されそうではないかと予想できる。生徒自身も「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能のどれをも伸ばしていきたいと願っている。そこで本単元では「統合後の江見中跡地をどうするか」を話題に、4技能を使いながら、生徒の最も苦手な「自信を持って自分の意見を言う」ことができるようにしていきたい。

(3) 指導観

繰り返し慣れ親しむ言語活動と生徒同士で会話を展開していくコミュニケーション活動

毎時間の授業の始めの Warm-up として、ユニットの単語チャンツ、早口言葉、基本文を含んだチャンツを取り入れ、「聞く・話す」言語活動を行う。単語や、接続詞を用いた長い文のリズムに合わせて楽しく練習することで、英語らしい発音やイントネーションや新しい文法表現により慣れ親しむことができると考える。また、今までの一方通行の Q&A から、生徒同士で行う1分間チャットを取り入れ始めた。これは生徒同士で挨拶から始まり、お互いに共感したり情報を求めたりしながら会話をできるだけ長く展開していくコミュニケーション活動である。小学校から積み上げてきた英語力をもとに、中学2年生のこの時期に始めるのが望ましいと考える。まだ、ぎくしゃくしながらであるが、一生懸命自分の知っている英語を用いて、相手の話に呼応しながら楽しそうに会話を続けている。少しずつ会話を続けるための表現を導入しながら、3年次には2分間チャットに発展させようと考えている。そして自信を持って人

間関係を作ったり維持したりしながら、情報や共感を互いに共有しながら英語でコミュニケーションができる生徒を育成していきたい。

ある案に対し、賛成か反対かとその理由を述べ、さらによりよい意見を考え発表し、お互いの意見を聞いてベストなアイデアを皆で作り上げる活動

今まではただ設定された場面で自分なりに表現を少しずつ変えて活動することがほとんどであった。しかしここでは「自分の意見を持ち、発表しあい、よりよい案を考えていく」というこの生徒たちには最も苦手な活動をあえて取り上げる。「ただ英語を話せる」だけの人材はあまり必要とされない。何に関しても自分の考えを持ち、しっかり伝えたり、人の意見を聞いたりして、双方でよりよい意見を作り上げていくことの大切さをこの単元を通して教えていきたい。そのため、「23年度に統合になるこの江見中学校の跡地を何に利用するのが地域として最もよいプランなのか」を考えることにより、切実感をもたせて活動させることを考えた。また、一人ではまだ自信がない生徒でもグループで考えることにより、安心して活動できるようにした。

3. 指導目標

観 点	目 標
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	・チャンツやチャット等に積極的に取り組み、楽しむことができる。 ・「江見中跡地をどうしたらよいか」のプラン作りに積極的に参加し、意欲的に発表したり、他のグループの意見を聞いたりすることができる。
表現の能力	・if, that, when, because などの接続詞の文を理解し、それらを用いて「江見中学校跡地の利用プラン」をグループで考え、文を作り発表することができる。
理解の能力	・他のグループの考えを聞き、接続詞を用いた文を理解することができ、それに対する意見を言ったり、書いたりすることができる。
言語や文化についての知識・理解	・新聞記事を読んで、内容を理解することができる。 ・自分たちの住む地域がだんだん変わり、これからは自分たちが関わり作っていく時代であることを認識することができる。

4. 校内研修との関わり

研究主題	学び方を身につけさせるための指導の在り方
研究仮説	学習に関する実態調査の結果をもとに、授業の指導方法を工夫したり、学習規律を確率させれば、各生徒が自己の「学び方」を身につけさせることができるであろう。

学習はわからなければ学ぼうとする意欲につながらない。ましてや外国語である英語は苦手意識を持ちやすく、そうなると「わからない→勉強しない」の悪循環となってしまう。したがって授業では「わかる授業」であることが絶対条件となる。そのため、授業では今何を目標に何を行っているのかを示すカードを提示したり、絵や単語カード、色チョークを効果的に用いたりするなど視覚情報もたくさん取り入れている。また、「音」も重要な要素であり、教材のCDだけでなく、キーボ

ードやメトロノーム、タンバリンなど効果音を使い、スピードとメリハリをつける用具として利用している。そして「聞く」「話す」「読む」「書く」を総合的に取り入れ、1時間生徒が楽しみながらしっかり内容を理解できる授業を心がけているつもりである。

本単元ではさらにその上にグループで「江見中跡地の利用法」を考え、英文を作り発表しあうという新しい学習形態を導入する。これにより「個→グループ→全体→個」という情報の発信と共有、深化というこれから大切なより良いプランを立てるときの学習方法を体験させ、身につけさせたい。

また、家庭学習では前述したように、毎日Bノートを課題としている。それは単語練習、ポイントのまとめ、ワークのやりなおし、テストのやり直し、英検対策等、自分にあつたものを考えやってくることになっている。毎日コメントを書きながら、生徒との信頼関係を築くとともに、一人一人にあつた学び方ができるようにアドバイスし、1年半かかりようやく多くの生徒が自分にあつたやり方で学習をし、提出するようになってきている。それでも英語が苦手な生徒は昼休みや放課後を利用し、個別支援を毎日続け、わかるところまでマンツーマンで学習し、家でやれることを本人と確認し、それをやってきたら褒めるというサイクルで個別学習を続けている。

5. 全体計画（7時間扱い）

時間	主な学習内容	学習目標
第1時	if 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、由香が送った FAX の内容を読み取る。	if 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、FAX の内容を読み取ったり、自分のことを表現することができる。
第2時	that 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて身近なことを話題にして「～だと思う」「私もそう思う。／私はそうではないと思う。」という対話をする。	that 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な対話をすることができる。
第3時	when 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、新聞記事の内容を読む。	when 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、新聞記事の内容を読み取ることができる。
第4時	5W1H を用い、江見中跡地が何になるのかの文を作る。	5W1H を用い江見中跡地の利用プランを英文にすることができる。
第5時	because 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、新聞の投書欄を読む。	because 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、新聞の投書欄の内容を読み取ることができる。
第6時	江見中の跡地利用プランに対して、賛成・反対とその理由を考え、より良い意見をグループで考え、英文にまとめる。	いままでの接続詞を用いながら、プランに対して「賛成・反対とその理由」そして「より良いプラン」を考え、英文にすることができる。
第7時 (本時)	グループごとに発表しあい、お互いの発表を聞き、互いの意見や考えを共有し、クラス全体としてのベスト・プランを考える。	いままでの接続詞を用いた自分たちの意見を英語で堂々と発表することができる。また他のグループの発表を聞き、どんなプラ

6. 本時の指導

(1) 目標

- いままで学習してきた接続詞 that や because 等を用い、江見中跡地利用プランについて、グループごとに自分たちが賛成・反対とその理由、そしてさらに自分たちが考えたより良いプランについての提案を堂々と発表することができる。
- 他のグループの発表を聞き、自分の意見や感想を持ち、評価用紙に書き、クラスとしてのベストプランを考えることができる。

(2) 展開

学習過程 (時配)	学習内容と活動	形態	支援 (○) と評価 (☆)
Greeting (2)	○挨拶をする。 Ask the weather & date.	一斉	○笑顔と豊かな表情で英語学習の雰囲気を作る。
Warm up & Review (13)	○早口ことばに挑戦する。(ALT) ○1分間チャットをする。 話題: Can you~?	ペア	○緊張をほぐし、英語を話す切り替え。 ○チャットの基本「笑顔」と「アイコンタクト」を忘れずにまず相手を褒める。
Activity (27)	○単語チャンツをする。(ALT) ○基本文チャンツをする。(JTE) If I can do it, you can do it, too. ○本時の目標を確認する。(JTE) ○意見を発表するのに必要な表現や単語を確認する。(ALT) We're for/against the plan. Because ~. ... ○グループでプレゼンの練習をする。	一斉	☆チャットを楽しめたか? できるだけ長く会話できたか? (観察) ○スピードを変えるなどして集中させながら復習をし、楽しみながら英語に慣れさせる。 ○黒板にカードをはり本時の目標を明示する。 ○表現カードをはる。
	Group Presentation ~江見中跡地の利用法について発表しあい、ベストプランを考えよう。~	グループ	○グループ内を見て回り、自信のなさそうな生徒にはそっと支援する。
	○グループごとに絵を用いてわかりやすく発表する。(Group 1→6) We're against the plan. (立場の表明)	一斉	○司会は英語係が行い、教師は支援にまわられるようにする。聞いている生徒も集中して聴けるように評価シートを配布し、感想を書かせる。ALTはそれ

<p>Consolidation (8)</p>	<p>Because ~. (理由) We think that ~. (自分たちの意見)</p> <p>○どのグループの発表のどんな点がよかったか。どんなプランがよいか 評価用紙に書き、発表する。</p> <p>I think that ~.</p> <p>○このクラスとしてはどのプランがよいか。</p> <p>○ALTの全体の評価を聞く。</p> <p>○次時の予告、家庭学習の確認をする。</p>	<p>それぞれのグループにコメントを与えながら良い点を賞賛する。 ☆堂々と発表できたか。 ☆他グループの発表をしっかりと聞けたか。(評価シート)</p> <p>個 一斉</p> <p>○生徒の英文を見て回り、躓いている生徒には支援をし、よいアイデアがある生徒をチェックしておく。 ☆どんな発表がよかったか。どのプランが最もよいか。</p> <p>○まとめとして黒板に書き、今日の学習を確認できるようにする。</p> <p>○どんなところを直していったらよいかをつかませる。</p> <p>○家庭学習でそれぞれ何をしたら効果的かの予想をたてさせる。</p>
------------------------------	--	---

※ _____ は授業の視点展開場面

<板書計画>

単語

ホワイトボード

テーマ	_____		
表現	グループプラン		
	1.	2.	3.
	4.	5.	6.
結論			
	写真		

黒板

チャンツ

模造紙

<準備するもの>

- ・単語カード (Unit 5)
- ・表現カード
- ・表示カード
- ・チャンツを書いた模造紙
- ・マグネット
- ・メトロノーム
- ・キーボード
- ・評価シート
- ・江見中の校舎の写真